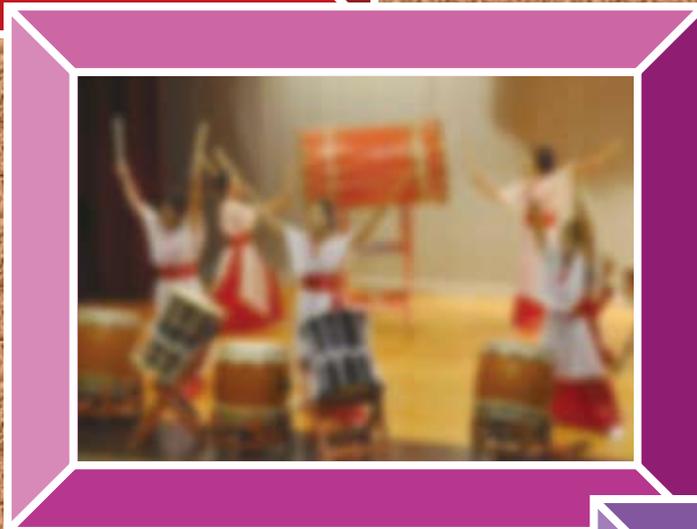


安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.16 2013.12.4
TEL62-4565



平成 25 年度
文化祭開催





●市民ふれあいコンサート◎
三郷中学校、三郷小学校と中学校の合唱部の合同合唱、吹奏楽部も合同演奏

三郷地域文化祭
三郷祭は10月19、20日に「市民文化産業展」、26日に「市民ふれあいコンサート」、29日から「菊花展」、11月2日に「芸能発表会」を開いた。

三郷地域文化祭



三郷文化公園体育館で、書道、絵画、写真、絵たより・絵手紙、短歌・俳句、工芸などの作品が出品された。「あづみ野山草会」「三郷郷土研究会」「三郷昆虫クラブ」の作品も展示された。



●菊花展◎
三郷公民館ロビーで開催した菊花展は小菊盆栽が主流で、石付け、木付け、懸涯、根連り、などの見事な盆栽が並んだ。

●芸能発表会◎
三郷公民館講堂で、舞踊、箏曲、大正琴、尺八、ハーモニカの演奏や、太極拳、ダンススポーツの華やかなステージに、初参加の獅子舞、ズンバダンス、フラダンスも加わった。



堀金地域文化祭
堀金文化祭は11月1日から4日の間、堀金総合体育館で作品展示、まどいの広場と芸能祭を開き、地域内で堀金一周駅伝を実施した。

堀金地域文化祭



●まどいの広場◎
堀金小学校金管バンド部、堀金中学校常念太鼓赤鬼塾、堀金中学校吹奏楽部が演奏を披露した。



●まどいの広場◎
堀金小学校金管バンド部、堀金中学校常念太鼓赤鬼塾、堀金中学校吹奏楽部が演奏を披露した。



豊科地域文化祭

●豊科交流学習センター「きぼう」◎
10月28日から11月4日、絵画や書道、風景写真、美術作品が所狭しと並べられ、色とりどり華やかな展示会場だった。今年は近代美術館ではなく、「きぼう」での開催となり、図書館来館者の目にもとまったようだ。

●豊科公民館◎
毎年恒例の菊花展。11月1日には、この日のためにと丹精込めて作られた菊200鉢以上の中から、審査が行われて仕立て方ごとの優秀賞が表彰された。華道展、盆栽展にも見事な作品が並び、じつくり足をとめて見る人の姿があった。



穂高地域文化祭



今年には穂高会館講堂が改修工事のため、穂高文化祭「芸能まつり」は穂高交流学習センター「みらい」を会場に、10月25日から27日まで開催された。

10月25日はカラオケ発表会があり、25人が歌声を披露した。

26、27日の芸能まつり第一部・第二部には、26団体が参加した。芸能部のほか、一般の部にはマジック、フォークソング、穂高西小学校金管部、穂高東中学校・同西中学校の吹奏楽部などの参加があり、これまでの練習の成果を発表した。

総合美術展は11月1日から3日まで、例年通り穂高会館アリーナを会場に行われた。

場内には、書・絵画・生け花・彫刻・押絵・木目込人形・押し花など学芸部の作品や、小中学生制作の絵画、個人出展の作品が展示され、訪れた人々は力作に見入っていた。呈茶席も設けられ、和やかな雰囲気も漂っていた。

穂高神社境内には、盆栽・山野草・菊・穂高人形が展示され、参詣客を楽しませていた。



明科地域文化祭



明科公民館を会場として、11月2、3日と文化祭が催された。玄関には丹精込めた見事な菊花と、ひょうたんが旧篠ノ井線廃線敷のトンネルを模して飾られていた。展示品の鑑賞をしながら出会った人が「元気だったかい」などと互いの健康を気遣う声も聞かれ、旧交を温めていた。

チョウの標本を前にして石井奏衣(小4)さん・幸花(5)さん姉妹は「すごかったね、きれいだったね」と祖母とともに見入っていた。明科中学校の立体作品の「寿司」は、完成度が高く、書道、絵画、写真、編



物などとともに日頃の努力が輝いていた。体験コーナーでは押し花を使つての年賀状づくりが人気度を高めていた。

3日の「芸能発表会」は、明南明北小学校の金管バンドがオープニングを盛り上げた。

舞踊、詩吟、コーラスは、年々充実感を高めてきており聞きごたえ、見応えがあったなかで、ひまわりキッズのダンスは、30人の小学生がステージを狭しとばかりに明るく軽やかに舞つたのが印象的だった。



堀金一周駅伝大会 『岩原地区公民館優勝』

11月4日に開催した「堀金一周駅伝」は通算49回を数える伝統の大会で、堀金総合支所を発着点に堀金地域全9地区を中継する。地区公民館対抗競技で、小学生から一般男女まで10区間を代表選手が襷をつないで勝利を競う。

岩原地区が、絶対エースの丸山純一選手を擁して高校男子区間に中2の丸山滉貴君、中学女子区間に小5の庭屋あおいさんを起用する苦肉の策ながら1時間3分7秒で3連覇を達成した。



光地区公民館「菊花展」

豊科地域の光地区公民館で、毎年開催されている菊花展。光菊花クラブ(内川郁夫会長)のみなさんが、1年がかりで丹精を込めて育て咲かせた菊百十点余りが展示された。例年になく高温の日が続いたが、積み重ねられた技術と情熱で克服し、「天・地・人」を表す三本仕立ての大輪、数えきれない花々が流れるように咲く懸崖仕立てなど、見事な鉢が飾られていた。



樺 鳥川溪谷の栃平の風穴を過ぎてから山道に入り、古道を歩く機会があった★まゆみ池に向かう入会山の斜面を沢伝いに、昔旅人が隠れ歩いた「間道」と言われる抜け道がある★笹を刈らなければ歩けない道辺に馬頭観音や石碑が残り、飛騨から安曇野に続く

山越えの道跡を伝えている★紅葉の中、隣国につながる大空の下で、古の旅人も同じ景色を見ていたのかと、今につながる「時」を思う★選挙の後、未来につながる安曇野市の、変わることに変わらぬことを見つめて、人も「絆」のつながりを広げたいものだ。(山樂子)